

## 研究の窓

### 30年目の「女性と社会保障」

本号は、2014年10月31日に開催された「第19回厚生政策セミナー：多様化する女性のライフコースと社会保障」（国立社会保障・人口問題研究所）の特集号である。副題にもあるように今回の厚生政策セミナーでは、女性と社会保障の関わりをメインテーマに取り上げている。

女性と社会保障の関わりについては、以下の3つのポイントが重要と思われる。第1に、女性は男性よりも長生きである。それだけに、疾病や要介護、低所得などのリスクにさらされる期間が長い。第2に、女性の生涯所得は男性よりも低い。そのために女性は経済的なリスクに対して脆弱であり、離別や死別などのライフイベントに遭遇した際に、低所得や貧困に陥るリスクも高い。第3に、女性が担うことの多い家庭内のケア労働は、介護や保育などの社会保障による現物（サービス）給付と代替的な面がある。したがって、現物サービスへのアクセスの容易さやサービス給付の多寡が、女性の時間配分、ひいては働き方に影響を与える。これらの視点から、今回の厚生政策セミナーでは人口学、経済学、社会政策など多領域の研究者が、それぞれの専門分野の知見に基づき女性と社会保障について論じている。

筆者が調べたところでは、季刊社会保障研究で「女性」を正面に打ち出した特集がなされるのは、「国連婦人の10年」の最終年に企画された第21巻3号（1985年）の「特集：女性と社会保障」以来である。この1985年という年は、女性の働き方という点からみても重要な節目にあたる。具体的には、この年に男女雇用機会均等法が成立し、全国民共通の基礎年金の導入と、それに伴う国民年金の第三号被保険者制度の開始が決まった（施行は翌年）。労働者派遣法が制定されたのもこの年である。また、1987年には配偶者特別控除が創設されている。

この30年間に何が変わり、何が変わらなかったか。本号の特集で詳述されているように、晩婚化・未婚化・晩産化・少産化が進み、ひとり暮らしの高齢女性が大幅に増加した（鈴木報告）。地方に目を転じると、都市部への若い女性の流出が続き、この傾向が「地方消滅」につながるのではないかと目下、各自治体は危機感を募らせている（林報告）。これらの面では女性のライフコースに顕著な変化が生じたと言えよう。その半面、子どもをもつ女性にとっての仕事と家庭の両立困難は、未解決の問題として残っている（鈴木報告・大石報告）。労働市場では女性労働の非正規化が進んだが（大沢報告）、これは男女間賃金格差を持続させる主要な要因になるとともに（川口報告）、女性

の貧困リスクを高める要因にもなっている（阿部報告）。現在の社会保障制度は女性のリスクの軽減やウェルビーイングの改善に寄与するどころか、貧困リスクを高める方向に「逆機能」している、というのが大沢報告の指摘である。

現在、政府は「女性の活躍推進」を成長戦略の重点施策に掲げ、女性の労働市場への参加を積極的に推進しようとしており、そのために配偶者控除・配偶者特別控除や第三号被保険者制度の見直しも検討中であると伝えられている。もしそれらが実現すれば、1980年代半ばから30年間にわたって女性の働き方に影響を与えてきた制度枠組みが大きく変化することになる。しかし、女性が活躍するためには、セーフティーネットの整備、そして平等施策の推進もまた必要である。こういう認識は、セミナーの論者全員に共有されていたと思う。

アメリカの経済学者による有名な研究であるが、主要オーケストラの入団テストに「blind audition」（奏者の姿を隠した演奏のみによる選考）を導入したところ、女性が一次審査に合格する確率が50%上昇し、団員に占める女性の比率が10年で倍増したというものがある（Goldin and Rouse 2000）。この例は、いかに人々の認知が「思い込み」に左右されやすいか、そして女性が活躍するうえで平等性を確保する枠組みがいかに重要であるかを示すものといえよう。同じく海外におけるさまざまな研究では、親や教師のジェンダー観が学力や大学における専攻の男女差を生み、ひいては労働市場における男女間格差をもたらすことが明らかにされている。

現在の社会保障制度は、暗黙裡に女性は結婚して夫に扶養されるものだと前提しており、これが単身あるいは離別した女性が貧困に陥りやすい背景となっている。雇用政策においても、配偶者のある女性や家事をしている女性はフリーターやニートを対象とする就労支援策の対象から除外されてしまっている。政策のそこかしこに内在するジェンダーバイアスを修正し、セーフティーネットの効果を高めていくためにも、平等施策の推進が求められる。

大石 亜希子

（おおいし・あきこ 千葉大学教授）

#### 参考文献

Goldin, C. and Rouse, C. (2000) "Orchestrating Impartiality: The Impact of 'Blind' Auditions on Female Musicians," *American Economic Review*, Vol. 90, pp.715-741.